

令和8年度 新たなまちのかたちに関する意見交換会 三崎地区 協議記録

日 時	2026年8月1日（土） 18:00～19:10
場 所	三崎中学校 体育館

参加者：20名

【開会のあいさつ】

辻区長会長：

復興公営住宅については、申し込みや今後の手続きが進んでいくと思うが、それと同じく、新たな三崎のまちづくりについて、少しでも前進につながる意見を伺いたい。

市長：

能登半島地震発災から2年7か月、奥能登豪雨からも1年10か月ほどが経過した。ようやく応急復旧から本復旧、復興へと進み始めたところであるが、まだまだ厳しい状況にあると思う。

復興公営住宅について、三崎地区で3か所で整備する。寺家地区で予定戸数10戸、雲津地区で予定戸数10戸、宇治では予定戸数21戸としている。

そのうち、宇治団地は既に発注済みであり、入居申込状況を踏まえ、入居戸数の調整をしたい。また、三崎町杉山は、木造型応急仮設住宅12戸を珠洲市賃貸住宅へ転用する。杉山については希望者が比較的多いと思込まれるため、申込状況を踏まえて調整を進め、できる限り早く入居者を確定させたい。

道路については、特に寺家地区において、県道大谷・狼煙・飯田線を創造的復興の観点から改良復旧する計画がある。急カーブを解消し、海側へ張り出して幅員を広げ、通りやすく走りやすい道路にする方向で石川県に検討いただいている。須須神社から新しい道路が離れることや、現道と新道の間に生じる土地をどのように活用するかは、寺家地区の新たなまちのかたちを考える上で重要な課題である。

三崎地区には粟津、小泊、本、校下など、それぞれの地区がある。各地域をどのように再生し、復興につながる工夫をしていくのかについて、皆様から要望や提言をいただきながら考えていきたい。

インフラの復旧を含め、お困りごとや質問、意見を出していただきたい。

【資料説明】

- ・復興公営住宅・珠洲市賃貸住宅について
- ・県道大谷・狼煙・飯田線の改良復旧について

【意見交換】

市長：

県と市で検討している道路線形は、当初案よりさらに海側へ出し、直線的になっている。須須神社前には相当広い土地が生じるため、その土地をどのように活用するかが大きな課題となる。地域では現在の案と当初の案をどのように考えているか。

辻区長会長：

この案件は以前より県から提示されており、寺家の4区長と水産関係者で協議した。現在のカーブは危険であるという意見があり、残る土地が広がっても、できるだけ直線に近い方がよいとの結論となった。それをふまえ県と市へお願いした結果が、今回の案である。新たに生じる大きな敷地の活用については、現在4区長で協議している。地域として良い案を提案したい。

市長：

粟津大橋から小泊地区側までの区間については、全面的に海を埋めて道路を出す計画ではないと理解してよいのか。

石川県：

粟津大橋の箇所は、もともと歩道付きで幅員も広く改良済みであるため、原形復旧する。被災した護岸は復旧し、新たに設置する護岸と高さを合わせる。

珠洲市：

粟津川の引砂地区側の道路と並行する海岸堤防は石川県の管理となる。粟津地区から寺家地区方面に向かって改良するのは、県道大谷・狼煙・飯田線と県道粟津・正院線がぶつかるところである。粟津地区で海岸清掃のごみを置かれる場所あたりから改良する。

参加者：

雲津地区の件で聞きたい。すずバス『雲津』のバス停から上の市道は今年度整備すると聞いているが、いつ頃から着手するのか。また、市のホームページの図では、従来道がなかった浜の方へ水色の線が引かれていた。決定ではないと思うが、浜へ向かう道路をどの程度考えているのか。

(株) 浜野水産付近と寄り道パーキング付近で護岸工事が始まると聞いている。以前、市に直してもらった浜へ流れるU字溝は、波返しを改良する際にも確実につなぎ、排水できるようにしてほしい。

珠洲市：

雲津地区の山側の市道、斎場から美笑苑方面へ向かう道路は、今年度中の発注に向けて進めている。測量会社や建設業者の人手不足、入札不調が続いているため、従来より大きな工事規模でまとめて発注することを考えている。

(株) 浜野水産の後ろから海岸へ伸びる排水路は、市で修繕する。県が施工する波返しと確実につなぎ、水が流れるように施工する。ホームページに示された浜へ向かう水色の路線は、現在市が管理する道路ではなく、地域要望を受けて今後整備する候補路線の可能性があるので、路線を確認する。

参加者：

雁の池の上を通る道路について、ため池の堤防と道路の復旧はどのような予定か。

石川県：

雁の池の上の道路は県道粟津・正院線であり、最終的には県で復旧する。ただし道路の下がため池の堤体となっているため、先に県農林部門がため池の堤体を復旧し、その後、土木部門が舗装等の道路部分を復旧する。昨年時点では今年度の8月、9月頃にため池工事を行うと聞いていたが、最新状況を確認する。できるだけ早く進むよう、市とも連携したい。

参加者：

現在、三崎中学校の仮設住宅に住んでおり、買い物で飯田へ出る際、寺の前の細い道路を通る。道路がガタガタで、一度補修してあるが、直されていないところはガタガタである。復興公営住宅が完成するまで3年かかり、その間も頻繁に通るため、対処してほしい。

珠洲市：

震災前は、その道路を短い区間ずつ拡幅する計画を進めていたが、現在は地震の影響で事業を止めている。ただし、路面の凹凸や砂利の箇所は、応急補修となるが早急に対応する。舗装されていないくぼみも現地を確認し、対応する。

参加者：

新たなまちづくりに関して、みさき保育園を今後どのようにするのか伺いたい。また、震災前から署名を集めて要望していた内方地区の排水整備は、現在の状況はどうなっているのか。

市長：

みさき保育園は復旧工事の入札を何度も行っているが、落札に至らず困っている。できるだけ早く復旧したい。修繕が終わっても、現在のままでは保育士が不足しているため、復旧と保育士の確保が

そろってはじめて再開できる。私としては、みさき保育園を再開したい。工事自体は大規模ではないため、施工業者が決まれば比較的早く終わると思うが、保育士の確保がより難しい課題である。

珠洲市：

内方地区の排水整備は、現状では止まっている。本復旧に向け、ある程度の規模で工事発注する予定である。まずは被災した道路の本復旧を最優先する。道路に並行して側溝がある箇所は手戻りなく復旧を進められるが、道路の法尻が下がったところに水路がある。道路舗装は災害復旧で直していくが、水路は災害復旧事業の対象ではないため、道路舗装を復旧した後、社会資本整備総合交付金等を活用して事業を再開したい。

市長：

災害復旧は、国の支援により市の負担が事業費の1、2パーセント程度で済む。一方、道路の線形改良、拡幅、排水工事などは別事業となり、社会資本整備総合交付金では補助率が50数パーセント程度で、残りの交付されない市の負担分に有利な起債を充てにくい。

また、交付申請額に対して十分な交付額が確保されないこともある。復興に必要な改良事業について補助率のかさ上げや交付枠の拡充を、国へ繰り返し要望している。別の交付金を活用するよう求められることもあるが、引き続き強く要望する。

参加者：

道路の本復旧が先で、その後に排水路整備という順番になることは理解した。震災前から住民の署名を集めて要望してきたことなので、忘れずに進めてほしい。

参加者：

三崎町管内には、路肩や法面が崩れ、カラーコーンを置いたまま片側通行となっている場所がまだ数か所ある。いつまでも工事が始まらない箇所があり、早く安全に通行できるよう復旧してほしい。市の職員も通勤で通る道路であり、住民はこれ以上長く待てない。

市長：

国土交通省の権限代行による国道復旧、石川県による県道復旧は、2029年春までの完了を一つの目標としている。市道も同時期を目標とし、少しでも早く進めていくが、交通量の多い箇所を優先したい。見落とされている危険箇所や特に重要な箇所があれば、再度、強く伝えていただきたい。

全く調査、査定、設計を行っていないまま対象外となっている市道路線はないと認識しているが、改めて確認し、できるだけ早く対応する。

参加者：

三崎町宇治団地の復興公営住宅は、どの事業者が建設するのか。

珠洲市：

三崎町宇治団地は積水ハウス株式会社が選定されている。

参加者：

ライスセンターから本地区方面へ向かう道は路面がガタガタで、仮設道路も造られているが、工事が止まっているように見える。今後どのように復旧するのか。

石川県：

仮設道路は、工事工程の都合で一時的に使用していないが、今後そちらへ交通を切り替え、現在の被災箇所を直す。ライスセンターから三崎方面の鉄板を敷いた区間は仮舗装を行い、今年度中に本復旧と舗装を進める。現在、片側交互通行となっている区間と、昨年度柵を設置し片側通行としていた区間も合わせ、年度内の完了を目指す。

参加者：

鶴島町鉢ヶ崎から小泊地区方面へ向かう道路も傷んでいる。雲津地区では崖が崩れ、U字溝も壊れて水が流れない箇所がある。以前、県にも現地を見てもらったが、いつ頃工事に着手するのか。

市長：

県道大谷・狼煙・飯田線については、部分的に復旧を進めているという認識である。

石川県：

雲津地区の箇所は手付かずの部分がある。ビーチホテル前付近は今年度、工事発注を予定している。ただし、それより雲津地区側の箇所は現時点で今年度の具体的な工事予定に入っていない。市道と県道が関係する箇所もあるため、改めて現地を確認する。

参加者：

小泊地区から内方地区へ向かう市道の内方地内で土砂崩れが起き、道路が一部失われ、現在は仮設で通行している。その箇所の復旧予定を伺いたい。

珠洲市：

災害復旧の設計は完了している。他の路線と合わせて契約規模を大きくし、年度内に本復旧工事を発注したい。雨などで路面が悪化し通行しにくくなる場合は、本復旧までの間、繰り返し応急補修を行う。

参加者：

震災後、祭りが地域のコミュニティ活動であると認められ、補助金をいただいたことに感謝する。復興公営住宅について、現在の仮設住宅は狭く、夫婦二人だけで暮らす中で気持ちがすれ違うという話を聞く。以前は娘や親戚が帰ってくることによって家の中がにぎやかになり、日々の暮らしが豊かになっていた。祭りやお盆は、離れて暮らす家族が帰ってくる大切な機会である。復興公営住宅は入居世帯に必要な部屋数で整備されると思うが、年に数回、帰省する家族が泊まれる共用の部屋、皆で借りられる部屋を団地内に設けることはできないか。残りの人生が数年だという高齢者もいる中で、その期間を豊かに過ごせる住まいとして考えてほしい。

市長：

復興公営住宅は二人暮らしであっても、希望すれば広い間取りを選ぶことは可能である。ただし、1LDKより2LDK、3LDKの方が家賃は高くなる。入居申込時に希望する部屋の広さを聞いている。一方、復興公営住宅はあくまで賃貸の公営住宅であり、国の標準建設費や管理上のルールがある。標準建設費を超える部分は自治体負担となるなど、できることには制約がある。宿泊施設として共用の客室を整備することは難しいが、地域の共有施設や皆が集まれる場所で家族を迎える方法など、地域と一緒に工夫する余地はあると思う。

珠洲市：

現在の応急仮設住宅は、1K、2K、3Kで、それぞれ約20平方メートル、30平方メートル、40平方メートルである。復興公営住宅は、最も小さい1LDKでも45平方メートルであり、仮設住宅の3Kより広い。二人暮らしの標準的な2LDKは約55平方メートルで、居室、リビング、台所、食事スペースを備える。

参加者：

一時、指定ゴミ袋が店頭で不足しているとの話があった。現在は足りているのか。スーパーの陳列棚が空になっていたことが何度かあった。

市長：

市として大きな不足の報告は受けていなかったが、なくなることや心配して多めに購入した方もいたのかもしれない。不足が生じないように、しっかり対応する。

市長：

三崎地区をどのような形にしていくかについて、三崎町のそれぞれの集落の再生と、三崎町全体の復興に向け、皆様と相談、協議をしながら進めたい。必要な施設、整えるべき場所、地域でできることなどを様々な場で話し合い、すり合わせながら取り組みたい。

以上